

伐倒用チェーンソーと根切仕様の違いとリスク

<ご注意ください>

通常伐倒用のチェーンソーに「根切用ガイドバー」「根切用超硬チェン」を装着しただけでは根切仕様にはなりません。詳しくは下記説明をご覧ください。

※上記のような使用をするとチェーンソー本体に甚大なダメージを被る恐れがあります。

※根切仕様機の詳細な仕様はメーカーによって異なります。詳しい仕様に関しては、チェーンソー本機メーカーへお問い合わせください。

・エアクリーナー

専用のエアクリーナー機構(部品含む)を用いて高い防塵性能を確保しています。根切作業では、伐倒に比べ非常に細かい「粉塵・土・泥」などを巻き起こします。そのため不純物の吸い込みが多くなり「異物の混入・空燃比の悪化」などの影響でエンジン内部の損傷(焼き付き等)につながるおそれがあります。

・チェーンソー本体の駆動スプロケット周辺

リムやクラッチドラム等が専用の高耐久部品になっている場合があります。チェンに付着した土や泥が駆動部まで運ばれることにより、クランクシャフトのベアリング周辺まで被害がおよぶ可能性もあります。その結果、エンジンや駆動系周りの高額修理につながるおそれがあります。

・スプロケットカバー(クラッチカバー)

チェーンソー本体のスプロケット周辺に土や泥が溜まりやすいため、土・泥を排出しやすい専用設計になっている場合があります。

・高トルク仕様

強固な土・泥等を切断するため、チェンの回転速度を落とした高トルク仕様になっている場合があります。

・チェンオイルの吐出量について

通常作業よりもチェンオイルの吐出量が多い設定になっています。根切作業で発生する細かい「粉塵・土・泥」などによる研磨剤のような作用や、ソーチェンとバーにかかる強い抵抗を軽減するために吐出量を多くして、チェンの動きをできるだけスムーズにします。オイルの吐出量が少ないと「チェン・バー」共に非常に早く消耗してしまいます。